

要重介護者の色彩快適環境の研究（第2報）

和洋女子短大 ○我妻美奈子 立正大非常勤 永田俊明
福井県立大 後藤幸子 立正大 三友雅夫

“ねまき”の色彩嗜好については、本学会第40回・41回・42回大会で研究報告したところである。本研究は本学会第45回大会で第1報として発表したその延長線上の研究である。

色彩による刺激は、精神的な安定感、心理的さわやかさ、心のぬくもり、やすらぎなどの心象を生みだすと思えるが、介護者及び被介護者にとって、どの色彩がどんな心象を生みだすのかが、本研究の課題である。

①調査期間—1993年7月～1993年9月、郵送法（質問紙法）によって調査を実施。配票数4,170、うち有効票は538であった。②調査対象—特別養護老人ホーム寮母474名、家族（主たる介護者）64名。③調査項目—対象者属性、対象者の和風の“ねまき”志向、動機、生活環境、色彩関心度、色彩嗜好などの質問項目を設定。④データ処理—FACOM M-760を使用し、統計分析システム(SAS)によった。

結果については、対象者・年齢・性別などで分析を行い、特に、色彩イメージ構造について、色彩（青、白、緑、赤、黄、茶、灰色系統）の言語イメージ（空間）に占める快適性の因子分析を行った。発表時に資料を配布して報告する。